

農林水産省

平成 27 年度海外農業・貿易事情調査分析

事業（農業所得構造分析）

報告書

第Ⅱ部

オランダ、ポーランド及びスペインの
農業所得の構造

2016 年 3 月

株式会社 農林中金総合研究所

はじめに(第Ⅱ部)

本報告書は農林水産省「平成27年度海外農業・貿易事情調査分析事業(農業所得構造分析)」のうち、オランダ、ポーランド、スペインにおける農業所得構造について取りまとめたものである。

本調査では、農業・農業政策の特色と目指す農業の概要及び農業所得の構造、農産物の高付加価値化、6次産業化による所得の向上に係る政策・制度について調査・分析した。併せて、農業就業構造の変化とその要因についても調査した。

調査を進めるにあたっては有識者による検討委員会を組織し、3回の検討会を開催したほか、2015年下半期にオランダおよびポーランドで聞き取り調査を実施した。

本報告書(第Ⅱ部)については、下記の通り、当方が収集した情報(第1章)及び検討委員諸氏から提供いただいた情報(第2、3章)に基づき、当方が取りまとめた。

第1章(オランダ)	一瀬裕一郎	株式会社農林中金研究所 主事研究員
第2章(ポーランド)	弦間正彦	早稲田大学 教授
第3章(スペイン)	松田裕子	南伊勢町 まちづくり政策監 三重大学 特任教授

2016年3月

現地調査実績

(オランダ)

調査員：一瀬裕一郎

実施期間：2015年11月2～6日

訪問先：

- ・ Rabobank
- ・ LEI, JETRO
- ・ DLV
- ・ AOC Raad
- ・ AVEBE

(ポーランド)

調査員：弦間正彦

実施期間：2015年9月15～24日

訪問先：

- ・ 農業農村省 農業・食料経済研究所
- ・ 農業経済研究所
- ・ 農業経営・技術普及センター
- ・ WarmlaMarury 農業商工会議所
- ・ 現地農産加工業者、農業生産者
- ・ ポーランド中央統計局
- ・ ワルシャワ農業・生物科学大学

(スペイン)

調査員：松田裕子

実施期間：2015年9月21～30日

訪問先：

- ・ バレンシア中央卸売市場
- ・ バレンシア州政府
- ・ Cooperativa CANSO (農協)
- ・ Naranjas Che/ Tarongino
- ・ バレンシア大学
- ・ Mercado Municipal del Olivar
- ・ バルセロナ卸売市場

目 次

はじめに	i
現地調査実績	ii
目次	iii
1 オランダ農業の特徴および農業所得構造と補助金	1
1-1 オランダ農業の特徴	4
1-1-1 国土	4
1-1-2 EU 共通市場	4
1-1-3 輸出型農業	5
1-1-4 農業政策の特色	5
1-1-5 小括	6
1-2 オランダの農業所得構造と補助金	7
1-2-1 農業純所得と補助金	7
1-2-2 農業所得構造	9
1-2-3 補助金（投資への補助金を除く）	11
1-2-4 補助金（投資への補助金を除く）税金収支	14
1-2-5 投資への補助金税金収支	16
1-2-6 小括	18
1-3 現地ヒアリング結果	19
1-3-1 現地ヒアリング日程	19
1-3-2 Rabobank	19
1-3-3 JETRO	22
1-3-4 LEI	23
1-3-5 DLV	25
1-3-6 AOC Raad	27
1-3-7 Groen horst	28
1-3-8 AVEBE	30
1-3-9 小括	31
1-4 まとめ	33
2 EU への新規加盟国における所得構造の変化—ポーランドの事例	35
2-1 はじめに	38
2-2 農業所得構造とその変化（経営収支、販売額、生産費、補助金と税金、資産の視点から）	39

2-3	高付加価値化、6次産業化にかかわる政策・制度	67
2-4	農業就業構造（専・兼業、年齢構成、雇用労働、性別、教育）	69
2-5	おわりに	78
3	EU加盟国における農業所得構造の変化—スペインの事例	80
3-1	スペインの農業・農業政策の特色	82
3-2	バレンシア州の農業・農業政策の特色	86
3-3	バレンシア州の農業所得構造に関する分析	89
3-3-1	バレンシア州の農業所得構造と直接支払受給権	89
3-3-2	バレンシア州における農業政策や社会政策等の文化的背景	95
3-3-3	2013年CAP改革が農業所得に及ぼす影響	99
3-3-4	農産物の品質向上および6次産業化への取り組み事例	102
3-3-5	バレンシア州の農業就業構造の変化とその要因	103
3-4	おわりに	106
3-5	追記	106

1 オランダ農業の特徴および農業所得構造と補助金

要 旨

1 本稿の内容

オランダ農業の特色，農業所得の構造，地理的表示や六次産業化等を通じた農産物の高付加価値化の状況，農業教育制度等の農業就業構造に関する情報を，既往文献や現地ヒアリングによって整理した。

2 オランダ農業の特徴

国土が九州とほぼ同面積であるオランダは，欧州の中央に位置する交通の要衝として古くから貿易の中心地として発展してきた。オランダの周囲には5億人の人口を抱えるEU共通市場がある。オランダは小さい国内市場の外で農産物の買い手を容易に見つけ，関税や非関税障壁に阻まれることなく大きなEU共通市場へ輸出できるという恩恵に浴している。

オランダは土地利用型の穀物を外国から輸入する一方で，労働集約型および資本集約型の高収益作物に特化した高効率の農業経営からなる農業構造を形成してきた。オランダでは，資本・労働集約型の施設園芸や酪農が広範に営まれている（写真参照）。オランダはそれらの部門で生産される花き，野菜，酪農製品等の輸出を伸ばし，世界有数の農産物輸出国となっている。

3 オランダの農業所得と補助金

オランダの農業純所得に占める補助金総額の割合は32%（補助金21,020ユーロ÷純所得66,508ユーロ）である。オランダの農業経営が受給する補助金の内訳をみると，補助金の3/4超をデカップル支払（16,051ユーロ）が占める。オランダの農業経営は，デカップル支払等毎年支払われる補助金のほかに，新たな投資をした際にのみ支払われる投資への補助金を受け取っている。

4 現地ヒアリング結果

現地ヒアリングで把握できた主要な点は以下の通りである。①オランダ農業は均質な農産物を効率的に大量生産するという特徴がある一方で，地理的表示や有機農業等による農産物の高付加価値化の取組みは少ないこと。②農業統計（FADN）の所得と補助金に関する科目の定義。③地域開発計画（RDP）は生産への補助金からの転換の流れに位置づく仕組みだということ。④オランダでは職業に直結したカリキュラムが生まれ農業職業教育が行われていること。⑤馬鈴薯の収益は園芸作物並みに高く，冷涼な気候が栽培に適しているため，オランダ北部で盛んに生産されていること。



〔施設園芸の温室〕



〔アールスメール花市場〕



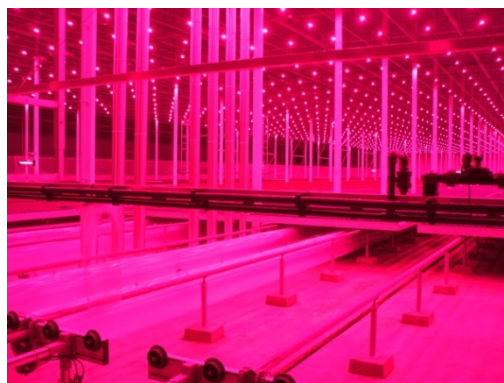
〔花の球根〕



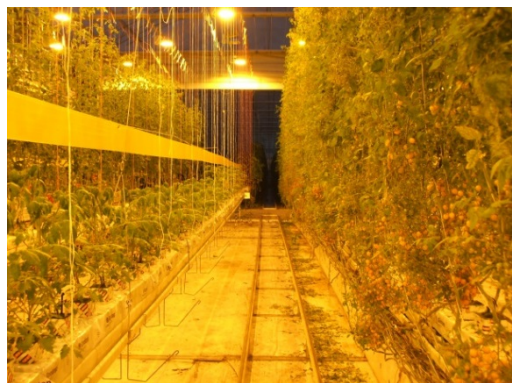
〔イチゴの温室〕



〔トマトの温室〕



〔LED 照明のシュラウト工場〕



〔トマトの温室〕



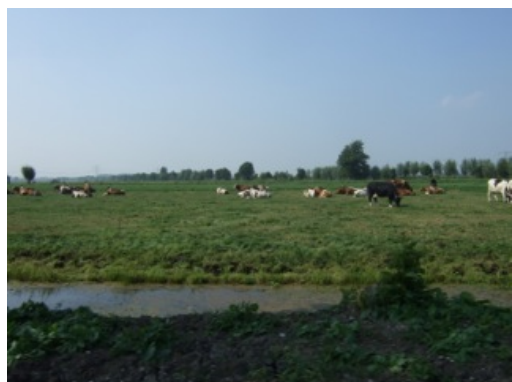
〔トマト温室内の自動運搬装置〕



〔風車のある農村風景〕



〔放牧地で放牧中の羊〕



〔放牧地で放牧中の牛〕



〔放牧地で放牧中の牛〕



〔熟成中のチーズ〕



〔チーズの直売所〕

1-1 オランダ農業の特徴

本章ではオランダ農業の特徴を整理する。西欧の中心に位置し古くから交通の要衝として発展してきたオランダの立地や、希少な土地を高度に利用し資本集約的かつ労働集約的な部門に特化したオランダの農業構造、生産した農産物を関税や検疫等の国境措置に阻まれることなくオランダから自由に輸出できる EU 共通市場の存在等に注目して論じた。

1-1-1 国土

東西 200km, 南北 300km に広がるオランダの国土面積は 415 万 ha である。国土の北西側は北海に面し、海岸線が 1,075km に渡って伸びるオランダは海洋国家でもある。オランダの人口は 1,640 万人 (2008 年) と九州の人口にほぼ等しい。国土の小ささゆえにオランダの人口密度は 486 人/k m²であり、世界の中で最も人口密度の高い国の 1 つである。

西欧のほぼ中央にあるオランダは、北海に面するとともに、ライン川、マース川、ワール川等の大河川の河口に位置するという立地条件によって、ロッテルダム港等の重要な港湾を核に「欧州の玄関」と呼ばれ、古くから貿易の中心地として発展してきた国である。

オランダは 13 世紀から干拓を進め、海拔が低く平坦で肥沃な土地が広がるオランダの国土が形成されてきた。オランダの国土の約半分に相当する 192 万 ha が農用地であるが、小国ゆえオランダの農用地面積はドイツ等他の EU 諸国と比べて特に小さい方である。農用地面積の大半は、耕地 (82 万 ha, 農用地面積に占める割合 43%) と乳牛用の牧草地 (98 万 ha, 同 51%) である。オランダの国民 1 人あたり耕地面積は 0.052ha であり、世界の中でも特に狭い国の 1 つである。オランダ農業者は狭い農用地面積を可能な限り効率的に利用しており、オランダの土地生産性 (単収) は世界の中でトップクラスに位置する。

1-1-2 EU 共通市場

オランダは 5 億人の人口を抱える EU 共通市場の中でも主要国である英・独・仏に近い欧州北西部の中央に位置しており、小さい国内市場の外で農産物の買い手を容易に見つけ、関税や非関税障壁にほとんど阻まれることなく、EU 共通市場へ輸出できる。前項で述べたオランダの立地が基礎に加えて、オランダの国内市場は小さいが自国の周りに存在する EU 共通市場という巨大なマーケットへ、国境措置に阻まれることなく農産物を容易に輸出できることが、オランダが農産物の輸出大国となりえた要因の 1 つである。農産物の輸出においてライバルであるスペインや東欧諸国は、EU 諸国の中でも購買力のあるドイツや北欧の国々から距離的に離れており、輸出先国まで農産物を輸送することは、オランダほど容易ではない。

1-1-3 輸出型農業

オランダの農業は、労働集約型および資本集約型の作物に特化した構造である。オランダは平坦だが狭小な国土ゆえ、国民 1 人あたり耕地面積が狭いため、広大な土地を必要とする穀物や油糧種子等の土地利用型作物の生産には適していない。だが、人口の少ないオランダは、ドイツやフランス等 EU 共通市場の近隣国から、国民が必要とする量の穀物を容易に輸入できる。

また、オランダでは限られた農地からより多くの収穫を得るために、高収量品種の育種や多収技術の開発が行われている。同時に、オランダでは作業の標準化や機械化を進められ、人件費等の生産コストの削減が行われている。このような取組みを通じて、オランダでは土地および労働生産性が高い効率的な農業経営が行われている。

表Ⅱ-1-1 部門別付加価値額

	2001		2006	
	百万ユーロ	%	百万ユーロ	%
耕種作物	1,006	13.2	1,180	14.6
園芸	3,828	50.1	4,260	52.8
施設園芸	2,694	35.3	3,210	39.8
露地園芸	1,134	14.8	1,050	13.0
草地酪農	1,596	20.9	1,575	19.5
集約畜産	1,204	15.8	1,055	13.1
合計	7,634	100.0	8,070	100.0

資料 Li Weimin (2009) Dutch agriculture through the eyes of a Chinese economist

オランダ農業の部門別付加価値額を表Ⅱ-1-1 に示した。2006 年のオランダ農業における付加価値額の合計 80.7 億ユーロのうち、園芸が 52.8%、酪農が 19.5% を占めている。施設園芸の中でもとりわけ施設園芸による付加価値額が大きい。従って、オランダ農業の主要部門は園芸と酪農であるといえる。なお、オランダの酪農経営の中には、我が国の六次産業化のように、搾乳した生乳を原料にチーズを製造し、消費者へ直売を行っている経営もある（詳しくは和泉（2016）を参照）。

以上のような条件により、オランダは穀物を外国から輸入する一方で、労働集約型かつ資本集約型の高収益部門（＝園芸、酪農）に特化した高効率の農業経営からなる農業構造を形成することができた。そして、オランダは農業の主要部門である園芸および酪農で生産される品目、すなわち花き、野菜、畜産品、酪農製品等の輸出を伸ばしてきた。

1-1-4 農業政策の特色

既往文献（OECD（2015））によれば、オランダの農業政策の特徴として以下のような点が挙げられている。

- オランダ政府は EU の共通農業政策 (CAP) の枠組みの中で、生産的な投資を促進し、市場を歪めることが少ない施策を通常選択していること。
- 特定の品目に対する補助金の支払いは最小限に抑えること。
- CAP の農村開発に係る財源は、政策効果を高めるために、明確に政策対象を定めた少数の施策に集中させていること。
- 農村開発に係る財源を活用した施策には、動物福祉や環境に対して親和性のある営農活動（家畜糞尿処理を含む）の実践に対する支援が含まれていること。
- イノベーション、持続可能性、環境保全に関する施策に重点を置いていること。
- オランダの農業の主要部門である園芸部門は、厳しい環境規制がイノベーションの引き鉄となって、CAP や EU の貿易政策等の政策支援に殆ど頼ることなく、競争力を高めるのに成功したこと。

1-1-5 小括

国土が九州とほぼ同面積であるオランダは、欧州の中央に位置する交通の要衝として古くから貿易の中心地として発展してきた。オランダの周囲には 5 億人の人口を抱える EU 共通市場がある。オランダは小さな国内市に留まらず大きな EU 共通市場で農産物の買い手を容易に見つけ、関税や非関税障壁に阻まれることなく輸出できるという恩恵に浴している。

オランダは土地利用型の穀物を外国から輸入する一方で、労働集約型かつ資本集約型の高収益部門（＝園芸、酪農）に特化した高効率の農業経営からなる農業構造を形成してきた。そして、オランダは高収益作物である花き、野菜、畜産品、酪農製品等の輸出を伸ばしてきた。

オランダにおける農業政策の特徴は、農業生産の振興ではなく、動物福祉や環境保全等の市場を歪めず政策効果の高い少数の施策へ財源を集中させていることである。例えば、オランダ農業の主要部門である園芸は、政策的な支援をほとんど受けることなく、厳しい環境規制を奇貨としてイノベーションを創出し、競争力を高めてきた。

1-2 オランダの農業所得構造と補助金

本章ではオランダの農業所得構造と補助金について FADN (farm accounting data network : ファームアカウンティングデータネットワーク, EU 諸国の農業統計データベース) のデータを用いて整理する。(なお, 以下いずれも 1 農場平均の数値である。)

1-2-1 農業純所得と補助金

オランダの農業純所得と補助金の関係 (2012 年) を表Ⅱ-1-2 に示した。全部門について詳しく述べる。全部門の純所得 (FADN コード [以下省略] SE420) は, 66,508 ユーロである。また, 補助金総額は, 21,020 ユーロである。従って, 農業純所得に占める補助金総額の割合は 32% である。補助金の中身をみると, 補助金 (投資への補助金を除く) (SE605) が 20,703 ユーロ, 投資への補助金 (SE406) が 317 ユーロである。補助金 (投資への補助金を除く) の詳細は, デカップル支払 (SE630) が 16,051 ユーロ最も多く, 次いで農村開発への補助金 (SE624) が 3,031 ユーロ, その他の補助金 (SE699) が 1,335 ユーロとなっている。

部門別に純所得に占める補助金の割合をみると, 草食家畜 (肉牛, 羊, 山羊等) が 160% と最も高く, 続いて酪農が 57%, 混合農業が 38% となっている。一方で, それ以外の部門では純所得に占める補助金の割合が全部門 (32%) を下回り, 園芸 (6%), その他の永年作物 (7%), 穀食家畜 (豚, 鶏等) (14%) の部門で低い。

また, オランダ農業の総労働投入量 (SE010) をみると, 全部門平均では 2.76 AWU (annual work unit=フルタイムの労働者 1 人に相当) である (うち雇用 (SE020 paid labor input) 1.33AWU)。つまり, 1 農場あたり年間 2.76 人のフルタイム労働者が必要ということの意味する。部門別では, 園芸が突出して高く 7.00AWU (うち雇用 5.38AWU) であり, 次いでその他の永年作物が 3.58AWU (うち雇用 2.18AWU) である。この 2 部門の総労働投入量が全部門平均を上回っている。一方, 耕種作物, 酪農, 畜産等で総労働投入量は全部門平均よりも少なく, 1.6~2.1AWU である。

ところで, 純所得を総労働投入量で除し, 1AWU あたりの純所得 (=フルタイムの労働者 1 人あたりの純所得) を求めると, 全部門では 24,097 ユーロである。部門別では, 耕種作物が 65,862 ユーロで最も高く, 次いでその他の家畜が 40,243 ユーロである。一方, 草食家畜が 8,561 ユーロと最も低く, 次いで園芸が 13,117 ユーロである。つまり, オランダ農業の部門間には, 収穫作業等で多くの労働力を必要とするゆえに 1 労働者あたり純所得が低い園芸と, 収穫作業の機械化が進み労働力をそれほど必要とせず 1 労働者あたり純所得が高い耕種作物というようなコントラストが見受けられる (念のため 2004 年から 2012 年の 9 年平均でも, 1 労働者あたり純所得は, 園芸で最も低く 8,798 ユーロである一方, 耕種作物で最も高く 29,650 ユーロであるので, 単年の農産物価格水準の影響とはいえない)。

また, 農業者の手取りという観点から, 純所得を総労働投入量 (SE010) から雇用労働力

を除いた総家族労働投入量 (SE015, Family Work Units) で割り、1 家族労働者あたり純所得を算出した。純所得を SE010 で割った場合と同様に、SE015 で割った場合でも、耕種作物の1 家族労働者あたり純所得が 94,431 ユーロと最も高く、次いで園芸の 56,683 ユーロである。なお、小麦等の穀物と比べて極めて高価格で販売されるという馬鈴薯が、耕種作物の純所得が高い背景にあるとみられる。

表 II-1-2 オランダ農業部門別純所得および補助金 (2012 年)

		(単位 ユーロ, AWU, FWU, ha, %)							
科目		(1) 耕種作物	(2) 園芸	(4) その他の 永年 作物	(5) 酪農	(6) 草食 家畜	(7) 穀食 家畜	(8) 混合 農業	全部門
純所得 a	SE420	113,942	91,818	70,740	53,174	14,554	65,998	64,064	66,508
補助金総額 b		29,044	5,070	5,143	30,341	23,265	9,509	24,395	21,020
補助金額 (投資への補助金を除く)	SE605	28,983	4,973	5,143	29,609	23,265	9,198	24,217	20,703
対									
象									
作物	SE610	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜	SE615	6	3	0	226	44	1,833	6	147
農村開発	SE624	3,611	319	832	4,946	3,373	1,780	1,887	3,031
その他	SE699	129	3,460	1,021	809	1,358	1,557	152	1,335
中間消費	SE625	69	3	2,759	2	6	341	0	133
外部投入要素	SE626	0	27	0	0	0	14	0	7
デカップル支払	SE630	25,168	1,167	532	24,077	18,485	3,674	22,184	16,051
投資への補助金額	SE406	61	97	0	732	0	311	178	317
純所得に占める 補助金総額割合	b/a	25	6	7	57	160	14	38	32
総労働投入量 (Annual Work Units)	c SE010	1.7	7.0	3.6	1.7	1.7	1.6	2.1	2.8
1労働投入量あたり 純所得	a/c	65,862	13,117	19,760	30,915	8,561	40,243	30,949	24,097
1労働投入量あたり 補助金額	b/c	16,788	724	1,437	17,640	13,685	5,798	11,785	7,616
総家族労働投入量 (Family Work Units)	d SE015	1.2	1.6	1.4	1.5	1.3	1.3	1.7	1.4
1家族労働投入量あたり 純所得	a/d SE430	94,431	56,683	50,464	34,580	11,466	52,562	38,929	46,216
1家族労働投入量あたり 補助金額	b/d	24,407	3,130	3,674	19,702	18,319	7,547	14,785	14,699
農地面積	e SE025	61.9	9.0	12.6	50.6	29.5	9.3	49.7	35.7
1haあたり純所得	a/e	1,842	10,191	5,637	1,051	493	7,097	1,290	1,866
1haあたり補助金額	b/e	470	563	410	600	788	1,022	491	590

資料 FADN より作成。以下同様。

注 1 FADN の分類には「(3)ワイン」があるが、オランダでは同部門の値が無いので、表示していない。

注 2 外部投入要素とは労賃、地代、利子。

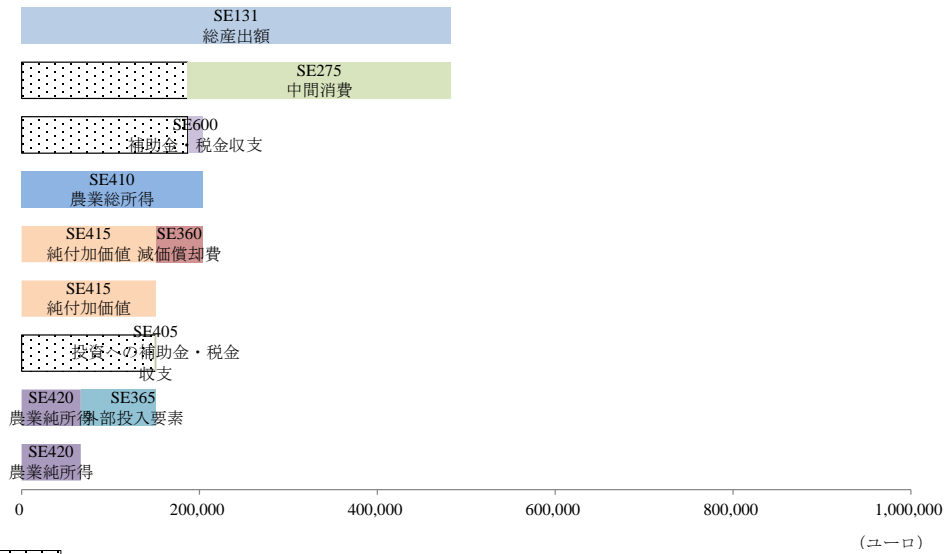
純所得と同様に、補助金総額を総労働投入量で除し、1AWU あたりの補助金額を求めると、全部門平均では 7,616 ユーロである。部門別では、酪農が 17,640 ユーロで最も高く、次いで耕種作物が 16,788 ユーロである。一方、園芸が 724 ユーロと最も低く、次いでその他の永年作物が 1,437 ユーロである。直接支払いは単一支払い (デカップル支払) が中心であるため、園芸など多くの土地資源を必要としない労働集約型の部門で 1 労働者あたりの

補助金額が低く、逆に多くの労働力を必要としないが広い農地を必要とする土地利用型の部門で1労働者あたりの補助金額が高くなっている。

1-2-2 農業所得構造

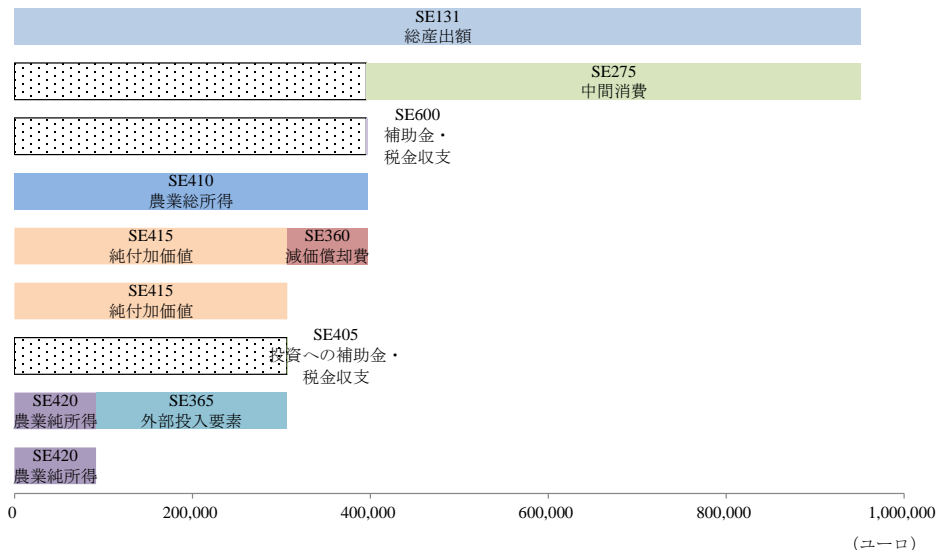
FADN の科目の定義に従って、オランダ農業経営の所得構造（全部門・2012年）について述べる（図Ⅱ-1-1）。総産出額（SE131 Total output）は482,766ユーロである。総産出額から中間消費（SE275 Total intermediate consumption）295,981ユーロを差し引き、補助金・税金収支（SE600 Balance current subsidies & taxes）16,805ユーロを加えたものが、農業総所得（SE410 Gross Farm Income）203,589ユーロとなる。農業総所得から減価償却費（SE360 Depreciation）を差し引いたものが、農業純付加価値（SE415 Farm Net Value Added）151,055ユーロとなる。純付加価値から投資への補助金・税金収支（SE405 Balance subsidies & taxes on investments）△623ユーロを差し引き、さらに外部投入要素（SE365 Total external factors）83,924ユーロを差し引いたものが、農業純所得（SE420 Farm Net Income）66,508ユーロとなる。

図Ⅱ-1-1 オランダ農業経営の所得構造(全部門・2012年)

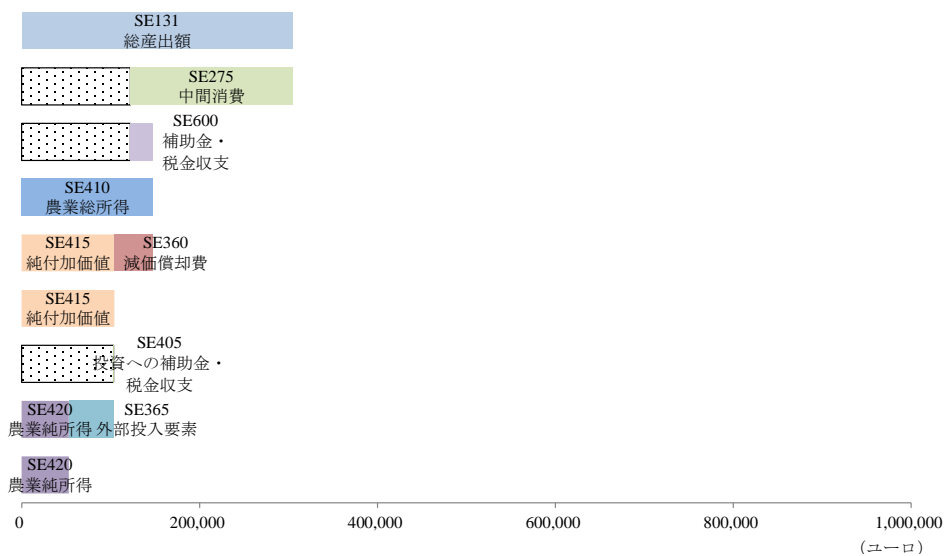


(注) [Dotted pattern] の系列は FADN に対応する科目が存在しないもの。以下同様。

図Ⅱ-1-2 オランダ農業経営の所得構造((2) 園芸・2012年)



図Ⅱ-1-3 オランダ農業経営の所得構造((5) 酪農・2012年)



オランダ農業の部門別所得構造を表II-1-3に示した。オランダ農業には、相対的に多くの中間消費財を消費して大きな総産出額となっている園芸やその他家畜、混合農業等の高コスト型部門がある一方で、相対的に中間消費財の消費が少なく小さな総産出額となっている草食家畜や酪農、その他の永年作物等の粗放型部門もある。草食家畜を除いて、高コスト型、粗放型の如何を問わず、農業純所得は53,174～113,942ユーロの範囲であり、総産出額の比(例えば園芸÷酪農=3.12)や中間消費の比(例えば園芸÷その他永年作物=4.39)よりも、部門間の差は縮小している。

オランダ農業の主要部門である園芸と酪農について前掲図II-1-1と同様の図を示した(図II-1-2, 図II-1-3)。前掲図で述べたように、園芸は高コスト型部門であり、酪農は粗放型部門である。それは2つの図の横軸のスケールをそろえてあるので、視覚的に確認できる。また、補助金(投資への補助金を除く)・税金収支の額は酪農で大きく、外部投入要素の額は園芸で大きいという相違がある。

表II-1-3 オランダ農業部門所得構造(2012年)

		(単位 ユーロ)							
科目		(1) 耕種作物	(2) 園芸	(4) その他の 永年作物	(5) 酪農	(6) 草食家畜	(7) 穀食家畜	(8) 混合農業	全部門
総産出額	SE131	367,128	952,267	321,210	304,480	197,732	778,661	457,220	482,766
中間消費財費	SE275	165,747	556,586	126,746	182,149	130,065	604,481	302,434	295,981
通常の補助金・ 税金収支	SE600	23,890	1,266	3,233	25,440	20,674	5,212	20,386	16,805
農業総所得	SE410	225,272	396,946	197,697	147,771	88,340	179,393	175,172	203,589
減価償却費	SE360	44,983	90,183	47,246	43,524	29,632	58,372	47,972	52,534
純付加価値	SE415	180,288	306,764	150,452	104,247	58,709	121,021	127,199	151,055
投資への補助金・ 税金収支	SE405	311	301	343	912	693	138	2,536	623
外部投入要素	SE365	66,035	214,645	79,369	50,160	43,461	55,161	60,599	83,924
農業純所得	SE420	113,942	91,818	70,740	53,174	14,554	65,998	64,064	66,508

1-2-3 補助金(投資への補助金を除く)

FADNの科目の定義に従って、補助金(投資への補助金を除く)(SE605 Total subsidies - excluding on investments)の内訳をみると、補助金(投資への補助金を除く)は以下の7科目の和である。

- 作物への補助金(SE610 Total subsidies on crops)
- 家畜への補助金(SE615 Total subsidies on livestock)
- 農村開発への支援(SE624 Total support for rural development)
- その他の補助金(SE699 Other subsidies)
- 中間消費への補助金(SE625 Subsidies on intermediate consumption)
- 外部投入要素への補助金(SE626 Subsidies on external factors)
- デカップル支払(SE630 Decoupled payments)

それを踏まえて、オランダ農業経営の補助金（投資への補助金を除く）の構造（全部門・2012年）を図Ⅱ-1-4に示した。オランダ農業経営が受給する補助金（投資への補助金を除く）は20,703ユーロである。そのうち3/4超を占めるがデカップル支払であり、16,051ユーロである。次いで、農村開発への支援が3,031ユーロ、その他の補助金が1,335ユーロである。それ以外の科目は、家畜への補助金が147ユーロ、中間消費への補助金が133ユーロ、外部投入要素への補助金等7ユーロ、作物への補助金0ユーロと、少額もしくは皆無である。

表Ⅱ-1-4で部門別にみても園芸とその他の永年作物を除いた5部門で、補助金（投資への補助金を除く）のうち最も多額な科目がデカップル支払であることは共通している。なお、園芸ではその他の補助金が最も多額であり、その他の永年作物では中間消費への補助金が最も多額である。

オランダ農業の主要部門である園芸と酪農について前掲図Ⅱ-1-4と同様の図を示した（図Ⅱ-1-5、図Ⅱ-1-6）。これらの図から補助金（投資への補助金を除く）について園芸と酪農の部門間の主な相違点として以下の2点を指摘できよう。

第1に、園芸経営と酪農経営が受け取る補助金（投資への補助金を除く）の額に大きな格差があることである。園芸経営が受け取る補助金（投資への補助金を除く）は4,973ユーロである一方で、酪農経営が受け取る補助金（投資への補助金を除く）は29,606ユーロである。両者が受け取る金額には、約6倍の開きがある。

第2に、園芸経営と酪農経営が受け取る補助金（投資への補助金を除く）の内訳の科目が異なることである。園芸経営では補助金（投資への補助金を除く）の中でその他の補助金が3,460ユーロと最も大きく、全体の約7割を占める（なお、その他の補助金は、EUではなく、国や地方政府の補助金である）。一方で、酪農経営では補助金（投資への補助金を除く）の中で面積払いのデカップル支払が24,077ユーロと最も大きく、全体の約8割を占める。

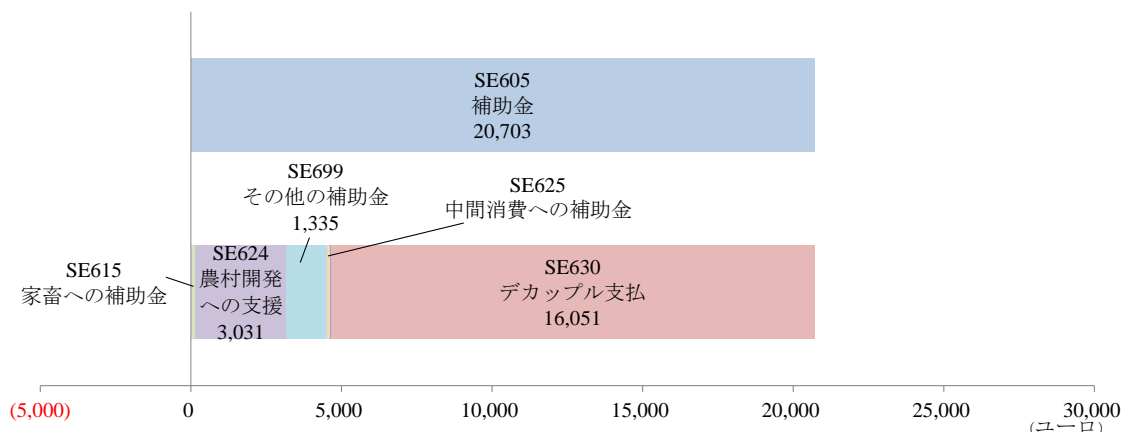
表Ⅱ-1-4 オランダ農業部門別補助金（投資への補助金を除く）構造（2012年）

		(単位 ユーロ)							
科目		(1) 耕種作物	(2) 園芸	(4) その他の 永年作物	(5) 酪農	(6) 草食家畜	(7) 穀食家畜	(8) 混合農業	全部門
補助金額 (投資への補助金を除く)	SE605	28,983	4,973	5,143	29,609	23,265	9,198	24,217	20,703
作物	SE610	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜	SE615	6	3	0	226	44	1,833	6	147
農村開発	SE624	3,611	319	832	4,946	3,373	1,780	1,887	3,031
その他	SE699	129	3,460	1,021	809	1,358	1,557	152	1,335
中間消費	SE625	69	3	2,759	2	6	341	0	133
外部投入要素	SE626	0	27	0	0	0	14	0	7
デカップル支払	SE630	25,168	1,167	532	24,077	18,485	3,674	22,184	16,051

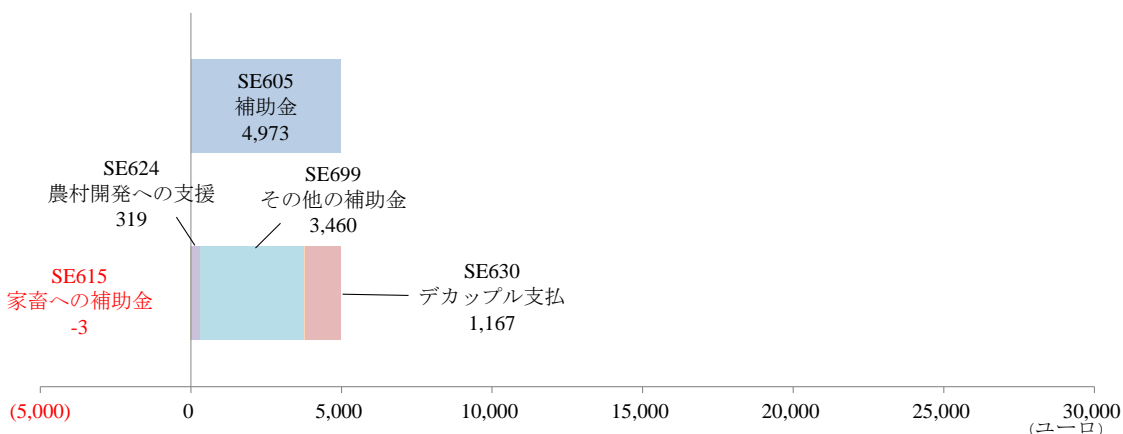
(注)家畜への補助金が負の値なのは、生乳生産割当超過の課徴金支払いのため。以下同様。

以上のように、園芸と酪農の2部門を比較するだけで、農業経営が受け取る補助金といっても部門によって補助金の額と種類が全く異なっていることが確認できる。

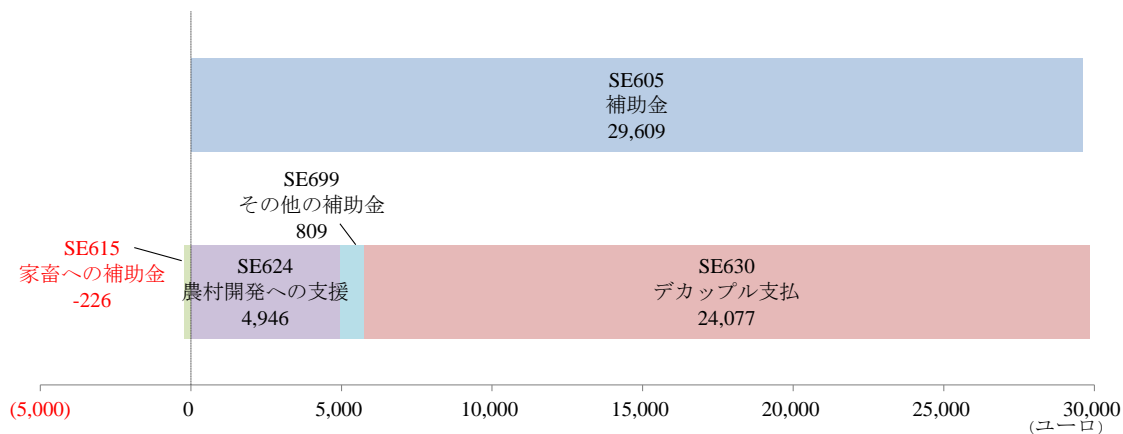
図II-1-4 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)構造(全部門・2012年)



図II-1-5 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)構造((2)園芸・2012年)



図II-1-6 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)構造((5)酪農・2012年)



1-2-4 補助金（投資への補助金を除く）税金収支

FADN の科目の定義によれば、補助金（投資への補助金を除く）収支（SE600 Balance current subsidies & taxes）は、補助金（投資への補助金を除く）（SE605 Total subsidies - excluding on investments）から税金（SE390 Taxes）を差し引き、投資への付加価値税を除く付加価値税収支（SE395 VAT balance excluding on investments）を加えた値と定義される。

それを踏まえて、オランダ農業経営の補助金（投資への補助金を除く）収支構造（全部門・2012年）を図Ⅱ-1-7に図示した。補助金（投資への補助金を除く）20,703ユーロから、税金3,788を差し引き、投資への付加価値税を除く付加価値税収支110ユーロの支払い超過を加え、補助金（投資への補助金を除く）収支は16,805ユーロの受取超過となる。部門別によって付加価値税収支の符号が異なり、全部門、耕種作物、酪農、その他の舎飼畜産、混合農業で付加価値税の支払い超過、逆に園芸、その他の永年作物、その他の家畜（豚、鶏）で受取超過である。

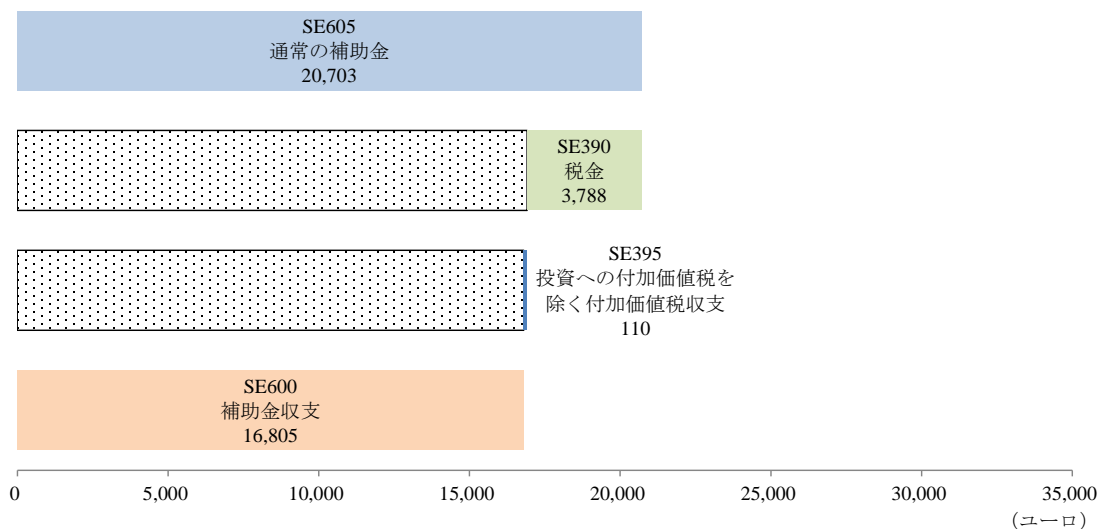
表Ⅱ-1-5で部門別にみると、受け取る補助金（投資への補助金を除く）の額の部門間格差は5.9倍（最大の酪農29,609ユーロ÷最少の園芸4,973ユーロ）と大きい。一方で、支払う税金の額の部門間格差は2.1倍（最大の耕種作物4,782ユーロ÷最少の草食家畜2,267ユーロ）と相対的に小さい。それゆえ、補助金（投資への補助金を除く）収支の額の部門間格差は、補助金（投資への補助金を除く）の部門間格差よりも大きくなり、20倍（最大の酪農25,440ユーロ÷最少の園芸1,266ユーロ）である。

オランダ農業の主要部門である園芸と酪農について前掲図Ⅱ-1-7と同様の図を示した（図Ⅱ-1-8、図Ⅱ-1-9）。これらの図から前掲表Ⅱ-1-5についての指摘した点を改めて確認できる。受け取る補助金（投資への補助金を除く）の額は酪農が園芸を24,636ユーロ上回り大きな差があるが、支払う税金の額は酪農が園芸を260ユーロ上回るのみであり差が小さい。このように補助金（投資への補助金を除く）の額および補助金（投資への補助金を除く）収支の額について、オランダ農業の部門の中で園芸と酪農は両極に位置する。換言すれば、酪農および園芸ともにオランダ農業の主要部門であるが、受け取る補助金（投資への補助金を除く）の額および補助金（投資への補助金を除く）収支の額が最も大きい酪農と、一方で最も小さい園芸という対照的な関係にある。

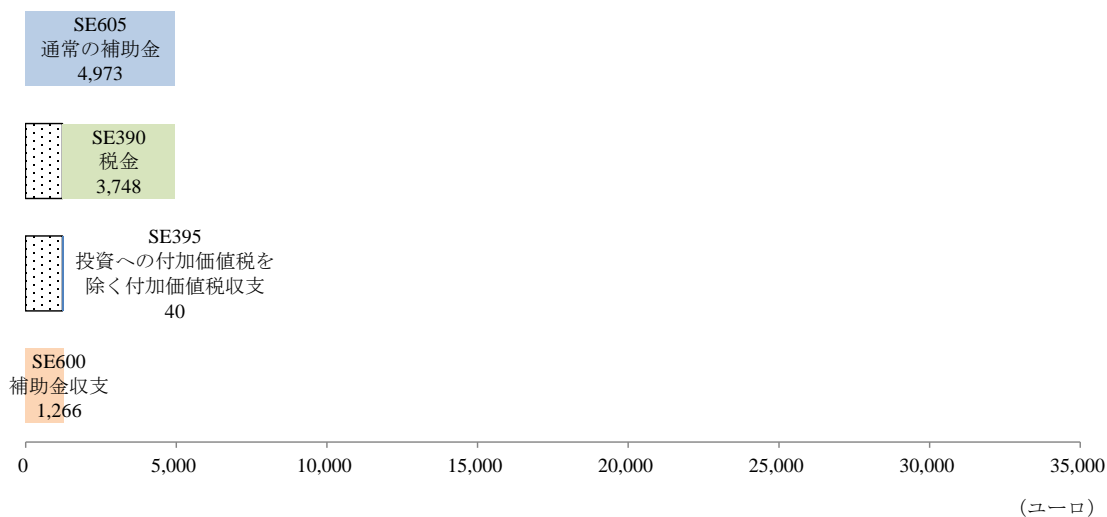
表Ⅱ-1-5 オランダ農業部門別補助金（投資への補助金を除く）税金収支構造（2012年）

		(単位 ユーロ)							
科目		(1) 耕種作物	(2) 園芸	(4) その他の 永年作物	(5) 酪農	(6) 草食家畜	(7) 穀食家畜	(8) 混合農業	全部門
補助金・税金収支 (投資への補助金・ 税金収支を除く)	SE600	23,890	1,266	3,233	25,440	20,674	5,212	20,386	16,805
投資への付加価値税を 除く付加価値税収支	SE395	311	40	382	161	324	135	21	110
税金	SE390	4,782	3,748	2,292	4,008	2,267	4,122	3,810	3,788
通常補助金	SE605	28,983	4,973	5,143	29,609	23,265	9,198	24,217	20,703

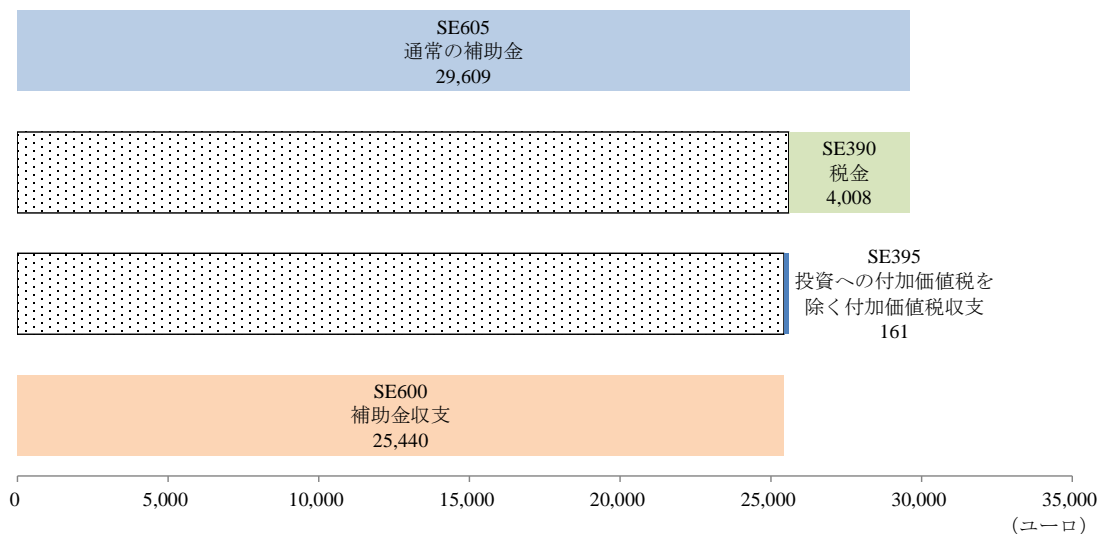
図II-1-7 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)税金収支構造(全部門・2012年)



図II-1-8 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)税金収支構造((2)園芸・2012年)



図II-1-9 オランダ農業経営の補助金(投資を除く)税金収支構造((5)酪農・2012年)



1-2-5 投資への補助金税金収支

投資への補助金収支 (SE405 Balance subsidies & taxes on investments) は、1-2-4 で述べた補助金 (投資への補助金を除く) (SE605) と比べて、受け取る額が僅かである。現地での聞き取りによれば、投資への補助金を受け取る農家数が少ないため、平均すると値が小さくなるとみられる。

その点に留意した上で、FADN の科目の定義によれば、投資への補助金収支 (SE405 Balance subsidies & taxes on investments) は、投資への付加価値税 (SE408 VAT on investments) から投資への補助金 (SE406 Subsidies on investments) と離農した酪農家への支払い (SE407 Payments to dairy outgoer) を差し引いた値と定義される。ただし、FADN のデータによると、オランダでは離農した酪農家への支払いは皆無のため、実際には投資への補助金から投資への付加価値税を差し引いたものが投資への補助金収支となる。

支払う付加価値税よりも受け取る補助金が大きければ収支は受取超過となり、逆に支払う付加価値税よりも受け取る補助金が小さければ収支は支払い超過となる。

表 II-1-6 オランダ農業部門別投資への補助金収支構造 (2012 年)

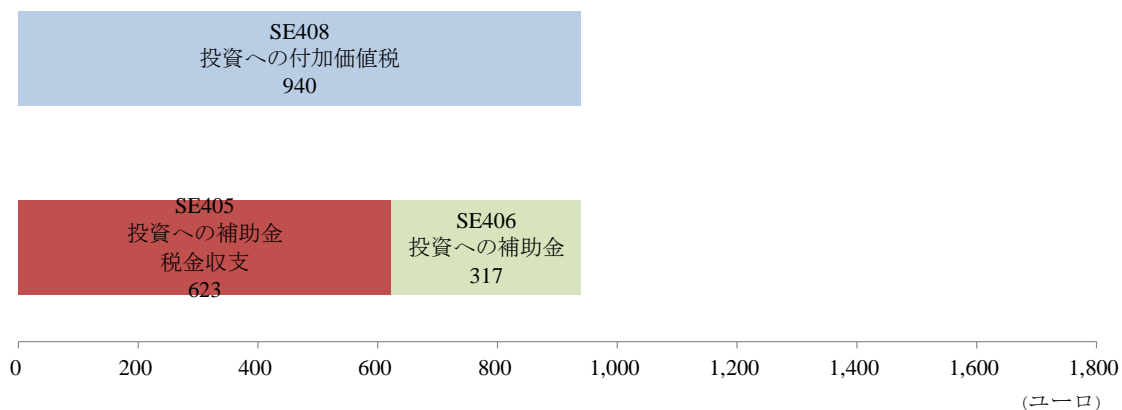
		(単位 ユーロ)							
科目		(1) 耕種作物	(2) 園芸	(4) その他の 永年作物	(5) 酪農	(6) 草食家畜	(7) 穀食家畜	(8) 混合農業	全部門
投資への補助金収支	SE405	311	301	343	912	693	138	2,536	623
投資への付加価値税	SE408	372	398	343	1,644	693	173	2,714	940
離農した酪農家への 支払い	SE407	0	0	0	0	0	0	0	0
投資への補助金	SE406	61	97	0	732	0	311	178	317

それを踏まえて、オランダ農業経営の投資への補助金収支構造 (全部門・2012 年) を図 II-1-10 に図示した。投資への付加価値税 940 ユーロから、投資への補助金 317 ユーロを差し引き、投資への補助金収支は 623 ユーロの支払い超過となっている。部門別でもその他の家畜 (豚、鶏) 以外の部門で付加価値税が補助金よりも大きく、支払い超過である (表 II-1-6)。(なお、その他の家畜 (豚、鶏) では付加価値税 173 ユーロ、補助金 311 ユーロであり、収支は 138 ユーロの受取超過である。)

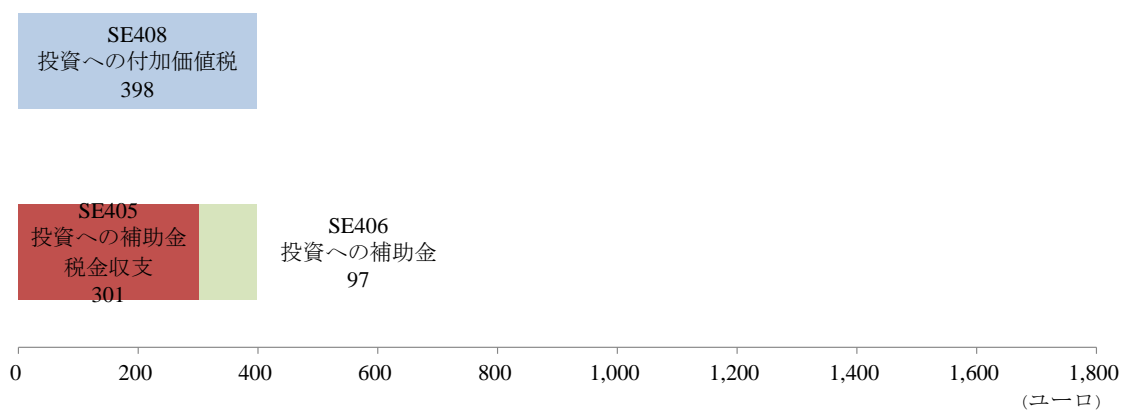
オランダ農業の主要部門である園芸と酪農について前掲図 II-1-10 と同様の図を示した (図 II-1-11, 図 II-1-12)。これらの図から前掲表 II-1-6 についての指摘した点を改めて確認できる。園芸、酪農とも、投資への付加価値税が投資への補助金よりも大きく、収支は支払い超過となっている。酪農は、支払う投資への付加価値税の額も、受け取る投資への補助金の額も、収支の支払い超過幅も、園芸よりも大きくなっている。SE406 投資への補助金の具体的な中身は、毎年の農業生産活動に直接関係のない動物愛護や家畜糞尿処理等の規制へ対応するための投資への補助金とされる (現地での聞き取りによる)。酪農ではそれらの部分への投資を行わねばならぬがゆえに、園芸よりも投資への補助金等の科

目で額が大きくなっているとみられる。

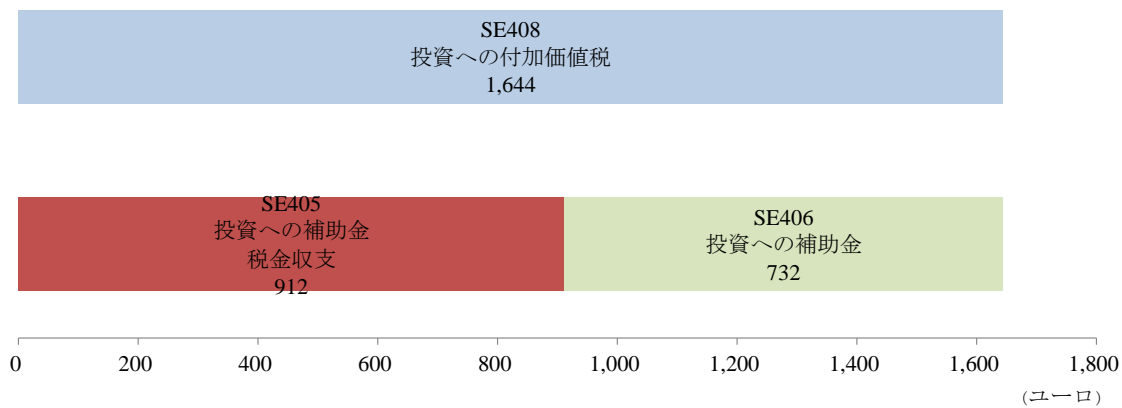
図Ⅱ-1-10 オランダ農業経営の投資への補助金収支構造(全部門・2012年)



図Ⅱ-1-11 オランダ農業経営の投資への補助金収支構造((2)園芸・2012年)



図Ⅱ-1-12 オランダ農業経営の投資への補助金収支構造((5)酪農・2012年)



1-2-6 小括

オランダの農業純所得に占める補助金総額の割合は32%（補助金 21,020 ユーロ ÷ 純所得 66,508 ユーロ）である。純所得に占める補助金の割合は農業の部門によって差があり、草食家畜（160%）、酪農（57%）、混合農業（38%）等の部門で割合が高い。一方で、園芸（6%）、その他の永年作物（7%）等の部門で割合が低い。

オランダの農業経営が受給する補助金の内訳をみると、補助金の3/4超をデカップル支払（16,051 ユーロ）が占める。その他に、農村開発への支援（3,031 ユーロ）、その他の補助金（1,335 ユーロ）等の金額が大きい。

オランダの農業経営は、最も受け取る額が大きいデカップル支払をはじめ、それと比較すると少額ながら農村開発への支援やその他の補助金等の補助金を毎年受け取っている。また、新たな投資をした際には、オランダの農業経営は少額ながら投資への補助金を受け取っている。なお、投資への補助金の具体的な中身は、毎年の農業生産活動に直接関係のない動物愛護や家畜糞尿処理等の規制へ対応するための投資に対する補助金とされる。それらの投資は酪農等の畜産部門で行わねばならないので、畜産部門では耕種園芸部門よりも投資への補助金額が大きくなっている。